

「ぼくのねこポーを読んで

2年 K・Tさん

「ぼくのねこポー」を読んで、わたしは心があたたかくなったり、かなしくなったりしました。とおるとポーがすぐに仲よくなつたといわれでは、わたしやられしくて、だつこしたのせつとおるよつた気やすになつました。でも、わざわざやねりをするときは、胸がぎゅうとつて、なみだが出てやうになりました。

ポーが堀の上にいたとき、わたしもねこをだつこしてみたいなと思いました。ふわふわで、きっとやさしこ氣もかになれると想像しました。ポーがとおるの家に来て、さよなにわざしたときほとてもしあわせでした。でも森くんのねこだとわかったときは、じてわざびしかつたです。本当に切なつ氣もかで、心がじんわりしました。

そのとき、わたしは学校の友だちの徐さんのことを見つめました。国に帰るいとになりました。すつとこじよにいたかったのに、さよなりをしなければなりませんで、とてもかなしかつたです。あの日のことを思つ出すると、今でも胸がちくらします。だから、とおるの氣もちがよく分かりました。

この本を読んで、やさしさが大事だと氣づきました。とおるは自分がさみしくても、森くんにポーをかえしました。それはほんとうにえらいことだと思いました。また、待つているあいだに不安になるだけでなく、名前を考えたりして樂しくすぐれることも学びました。わたしもさびしこともじ、樂しいことを見つけたいです。

これからは、家族や友だちを大切にしていきたいです。たとえば、お手つだいをしたり、ありがとうと言つたり、けんかをしてやさしい言葉で話したりしたいです。とあるのようによじ正しいことができるやさしい人になります。毎日、不安になつたりさみしくなつた時ほど、少しづつがんばつていきまます。